

第2回 北海道新幹線倶知安駅周辺整備
推進委員会 くとしんパークあり方検討部会
開 催 報 告

1 日時

2022年2月16日（水）16:30～18:00

2 場所

倶知安町役場 2階会議室

3 議事

○転車台の保存、移転、撤去における課題について … 資料

（植田係長）

・（資料に基づき説明）

（千坂部会員）

・そもそもだが、今回の議論は、駐車場の検討エリアから外れた所に転車台があれば問題にならなかった話なのか

（清水まちづくり新幹線課参事）

・転車台が町有地にあるので検討している。JR敷地にあるJR所有物であったなら、検討対象にはならないと思う。現在検討している西口駐車場エリアで見ると、転車台が一番良い位置に存在している。この位置を活用した駐車場や動線づくりを一案として検討しているところである。

（矢吹部会長）

・この部会では「保存・移転・撤去」の三択ではあるが、最初から「撤去」と考えるとその場で終わってしまう。「どうやって活用するか」がメインテーマではないか。

（柏谷部会員）

・個人的には現在地から少しだけずらすくらいが良いとは考えているが、まだ西口のレイアウトについては決まっておらず、形を変えられるならそもそもこの部会での三択議論は何だったんだ？とならないように整理されたい。町有地の形を考えると、転車台に触れずに検討というのも難しいと思う。

（清水まちづくり新幹線課参事）

・西口レイアウトはまだ正式な形ではないが、今まで決まっていなかった並行在来線のあり方について、長万部～余市間が鉄路廃止、バス転換が合意されたので、このレイアウトを

軸に今後の整備推進委員会での検討を進めていきたい。

(柏谷部会員)

- ・西口駐車場の形が変わることも考えられる中で、後戻りにならないようにしてほしい。

(矢吹部会長)

- ・方向性ありきになってしまうと、設計は変えられないから、移転するか撤去するしかない。西口観光系駐車場の利用台数がどうなるか。意見を重ねて「より良い残し方」を検討していければと思う。

(鈴木部会員)

- ・駐車場の形が変わることもあり得るならば、費用の比較は必要だと思う。例えば「転車台を残し今ある公園をつぶして駐車場を作る」か、「奥側に駐車場を延ばしていくか」でどちらが安価にできるのかなどで検討しないといけないのではないか。

(清水まちづくり新幹線課参事)

- ・今ある町有地を使って駐車場を検討し、転車台を撤去することが金額的には一番安価と思われる。どのような形にしろ現物保存するならば保存費用、維持費用や移転費用がかかる。転車台だけだと寂しいから、S Lと一体化という話もあるだろう。

(鈴木部会員)

- ・転車台にS Lを載せるような保存ができるのであれば理想ではあるが、残したことで観光に使う費用対効果を考える余地はあると思う。お金がかかるから撤去、となってしまうと、文化って何だろうという話になってしまう。

(矢吹部会長)

- ・どういう風に持っていっても必ずお金はかかる。「お金のかけ方」の問題。「ここにあった記録（歴史）を残す」のか、「現物を現在地や移設で残す」のか、残し方の選択というものが出てくる。

(宮武部会員)

- ・文化遺産として転車台の価値がどれだけあるか？を示す必要があると思う。この転車台を学校教育に使えて、有効に使えるなら残す価値はある。
- ・くとさんパークとの連携で考えると、無理に移動させるだけでなく、福知山駅のように転車台を半分に切って場所を確保するとかもできるかもしれない。現状よりは人が多く訪れる施設になるかもしれない。
- ・曖昧なイメージだけで「残っていれば鉄道ファンが来るだろう」ではなく、町の歴史を子どもに残せるような仕組みが必要。

(矢吹部会長)

- ・博物館の使命として、文化財としての活用など、小田桐学芸員も考えるところはあると思うが

(小田桐学芸員)

- ・埋もれていたのが現状。ソフト的な活用もできず、ハード管理もできていない。転車台にまつわる情報が非常に少ない。農業から、鉄道から町が発展していったという成り立ちを示す重要な施設と考えてはいる。移動する・しないに関わらず、あの形で残すのであればSLと併せて次の時代へ繋いでいければ良いのだが。文化面で言うと「資料」は無くなってしまうと終わりであり、博物館は現物主義である。
- ・形として残せるのであれば、子どもたちに出前講座で歴史を学び、転車台の現地授業に繋がるとか考えられると思う。

(矢吹部会長)

- ・「そこにある」ことで情報が伝わり、価値が増す。失くしてしまえば情報の伝わりが無くなり、撤去に対する批判的な意見というのも出るだろう。
- ・公園施設として建設課も苦勞していると思う。隣接するとさんパークの運用面など課題も多いと思う。仮に、公園の一角に移設したらどうなるのか…文化財としてどうなのか、庁内連携を取りながらできるのか。課題や考えあれば。

(中村建設課長)

- ・維持管理不足、有効な活用方法もなく、公園としては遊具や安全確認が重要視される中で手がまわっていないのが現状。保存となるならば、相当な費用負担があるだろう。動態保存なのか？転車台の強度は？など、新設するくらいの覚悟がないとできない。将来的な町の方針として示されれば、対応可能とは考える。
- ・個人的にはSL世代で思い入れはある。SLには感情論も出てくるだろう。町の方針をしっかり定めたうえでの批判は受け止めるべきと考える。

(矢吹部会長)

- ・過去へのリスペクトは大事。過去～現在～未来を繋ぐものとして、庁内がセクションを超えて対応していかないといけない。「横断的に」と言葉で言うと簡単だが、難しいことである。新しいものができる過程の中では、セクションの壁を取り除いて検討しないとけない。「保存」となればお金がかかるので、未来への投資として検討できるか。

(柏谷部会員)

- ・追加で聞きたいのだが、転車台は町のものでしょうか？

(清水まちづくり新幹線課参事)

- ・そうです。

(柏谷部会員)

- ・ 転車台は鉄道の歴史を示すものだし、ＪＲ敷地に移設させてもらって、管理は町でしますから…みたいなお願いをすることはできないものか。転車台は今のＪＲにとって価値があるものなのか。

(千坂部会員)

- ・ ＪＲ敷地を駐車場に使わせてもらうとも考えられるか…

(矢吹部会長)

- ・ 相互の利益になる可能性もあるのではないかな。ＪＲと協議するのも一案ではないかな。

(鈴木部会員)

- ・ ＪＲもトップの人たちはＳＬ世代で理解もある方もおられるだろうが、その下の世代になると我々世代と同じでＳＬに馴染みがなく、なかなか理解してもらえなかった経験もある。
- ・ 金銭面も大事だと理解しているが、学校教育に転車台を使えるなら、郷土愛の醸成などから大切なことと思う。官民一体で文化を守る方法として何が最善か考えないといけない。

(宮武部会員)

- ・ 小さい運動から始めることは大事だと思う。ワンダーキッズで転車台の草刈りをするとか。農業高校の生徒なども連携できそう。その様子をＳＮＳで発信していけば、ＪＲはじめ、まわりに届く可能性はあるのではないかな。仮に転車台が無くなったとしても、そういう活動に触れて記憶に残るようにしたい。
- ・ ＳＬ時代の記憶のある人が町にいううちに、歴史を残さないといけない。

(千坂部会員)

- ・ 昔は、子どもたちの写生会で転車台が使われていた。子ども達が遺産に触れる機会が大事。

(矢吹部会長)

- ・ 社会教育として、子どもたちが文化遺産に触れる取組みが大事。例えばだが「鉄道少年団」を結成し、歴史を知る千坂さんが講師になるなど…。今まで何も取り組んでいないわけではないが、上手に残っていないのが現状である。保存・移設・撤去のどれになっても、記憶に残す活動をしないとダメ。予算がなくても、発信できるものがある。

(小田桐学芸員)

- ・ 今までは教育に生かそうにも転車台の情報が少なく活用できていなかったが、転車台の意味を伝える活動を広げていく過程で記憶に残るようにできればいい。人脈ができて、知識のある人から話を聞けるような可能性も出てくるかもしれない。

(矢吹部会長)

- ・協働の取組み。役場の人と地域の人に関わる起爆剤になるかもしれない。町の人に関わってくる意識改革になる可能性がある。駅周辺の整備にしても、いろいろな人が関わってこないと難しい。実際に誰が使うんだ？となった時は訪れる人も地域の人も使っていく。いろいろ試すのが大事。かつてのＳＬ保存会のメンバーは少なくなってきたはいるが…

(中村建設課長)

- ・個人的な思いのほかに、行政の立場からとも言わせてもらえれば、今の機運で保存に取り組んでも 10 年後に「何だったんだろう？」というような状況になる可能性だってある。

(矢吹部会長)

- ・北海道新幹線倶知安駅周辺整備推進委員会で中間報告ということだが、「結論が出てなくてもこういう意見が出ていました」という内容になるだろう。部会の 3 回目では一定の方向性、費用面などや全体として取り組む方法を発信していければ良い。担当している課だけの話ではない。役場と地域で作り上げるという方向性が大事。

(柏谷部会員)

- ・転車台中央にあるアーチみたいなものは重要なものなのか？例えば、横に移設ではなく下に下げて、転車台を上から見ることができて管理しやすくなるなど、アイデアも必要か。

(鈴木部会員)

- ・ＳＬの作業工程を曲にした「ＳＬ太鼓」など、ロクさんの太鼓は全て過去を紐解いていかないと説明できない。子どもたちに太鼓を教えるとき、ＳＬの動き方から教えていく。ＳＬや転車台が残っていると、実物を見て伝えていきやすく、太鼓団体としてありがたい。
- ・仮に撤去となっても、この町の付加価値を残すためにも何かしらの歴史を残すことは必要である。ここは東京ではなく田舎の倶知安、新しいものを築いていくだけでなく、「残すもの」の考えも必要だろう。「絶対に残さなくてはいけない」ではなく、どうやったら倶知安町が良くなるのか、の話である。

(矢吹部会長)

- ・過去～現在～未来を繋ぐ「実物」としてどう捉えていくか。

4 その他

(清水参事)

- ・次回部会は 3 月上旬を予定しています。後日調整させていただきます。

5 閉会

以 上